



図-3 レイアウト例

エアシャワーは比較的粗大な粒子の除去には効果があり、このような場所での採用は有効とされている。また、P/Rには、扉が同時に開放しないようなインターロック機能を考慮する。

- ② 清浄度区分2の廊下から清浄度区分1の区域への、人の入退出ルートと物の搬出入ルートは分離する。原材料は前室で外装を取り、P/R経由で当該区域内に持ち込む。また、更衣室は、入域する区域の特性に応じて、例えば脱衣室→手洗室→着衣室→A/L(エアロック室)とするなど、その構成を適宜見直してもよい。また、A/Lの代わりにエアシャワーを設置する場合もある。但し、上述したように、エアシャワーは外部から持ち込まれる物などには有効かもしれないが、作動中に発塵状態となり、停止後にそれが落ち着くまでは時間を要することから、近年、このような箇所では使用されない傾向にある。対象とする区域の特性、エアシャワーの運用方法などを考慮して採用を検討するのがよい。
- ③ 清浄度区分1の作業室への入退出は清浄度区分1の共用の廊下からとし、作業室間を行き来しないようにする。